

教職コンソーシアム通信

学びの架け橋



人にまっすぐ。
大阪教育大学

01 「教師にまっすぐ」修了式

02 リレーエッセイ

03 加盟校出身学生の紹介

04 交流事業の紹介

06 加盟校の取組紹介

07 大教大トピックス／編集後記

教師をめざす高校生育成プログラム 「教師にまっすぐ」修了式

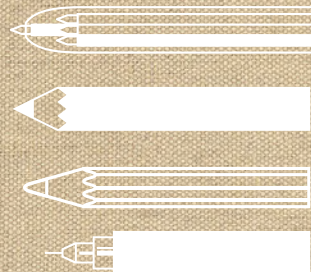
令和3年度「教師にまっすぐ」修了式は、3密を避けるため参加者を6部屋に分け、Zoomにより接続するなどして、令和3年12月25日に行いました。





RELAY ESSAY

リレーエッセイ



評価は何のために行うのか

大阪教育大学 総合教育系(学校教育部門) 八田 幸恵

評価についてのイメージ

「評価についてどんなイメージを持っていますか?」と教師をめざす大学生たちにきいてみると、次のような答えが返ってきます。「ペーパーテスト」「知識の量を測ること」「成績をつけること」「ランクづけすること」「振り分けること」「客観的に判定すること」「烙印を押すこと」……なかなか暗いイメージです。

実は、教師にとっても評価はあまり好まれる仕事ではありません。「できればやりたくない」「仕方ないからやる」ものとして受け止められることが多いです。教師が仲間内で使う言い回しに「採点の祭典」という言葉があります。この言葉には、テストの採点という気の抜けない大イベントに対する何とも表現しづらい教師の気持ちが凝縮されています。

では、評価は何のために行うのでしょうか?教師も生徒もやりたくないのであれば、やらなくて良いのではないのでしょうか?やらない方が、教育活動がうまくいくのではないのでしょうか?

評価と評定は違う

上で挙げたような評価のイメージは、評価と評定を混同することから来ています。

評価とは、生徒の学びのプロセスや学んだ結果により定着した資質・能力を可視化することです。なぜそれらを可視化する必要があるのかと言えば、そうすることで教師が自身の教育活動がうまくいっているか否かをチェックし、反省・改善することができるからです。つまり、評価は教師の教育活動を改善し、すべての生徒に確かな資質・能力を保障するために行うのです。生徒の素質や努力を査定するために行うものではありません。

評価に対して評定とは、生徒の学びのプロセスや学んだ結果により定着した資質・能力を可視化し、「この生徒にはこんな資質・能力がありますよ」ということを外部に対して客観的に証明することを指します。成績評定、資格付与、入試や選抜の情報提供などがそこに含まれます。

評価というどうしてもテストや成績評定を思い浮かべてしまいますので、評価と評定が混同され、評定が評

価を覆い隠してしまいます。しかし、評価は評定よりももっと広い行為です。評価の最も基本的な方法は観察であり、必ずしもテストという形式を伴っている必要はありません。生徒たちが実力を発揮し活躍する場を用意し、教師は生徒たちの姿を見てその育ちを味わい喜び、教育活動を反省する。現在そういう評価の場面は、体育祭や文化祭などの学校行事あるいは「総合的な探究の時間」に限定されていると思います。しかし、たとえばそれまでの小説を読むことの総仕上げとして夏目漱石「こころ」を読んで論文を書くといったように、教科でもそういった場面がもっとあって良いと思います。

なお、まれに評価のイメージとして「褒めること」「励ますこと」「やる気を出させること」といった答えを述べる大学生がいます。確かに評定とは真逆の明るいイメージですが、これらも教師の教育活動の改善にはつながりません。単に褒めることと評価することは、やはり違います。

教師が評定を行うことの意味は?

それでは、現場の教師が評定を行う必要はあるのでしょうか?教師は評価と教育活動の改善に専念して、評定はすべて大学入試センターのようなテストの開発・運用・採点を行う外部専門団体に任せてしまえば良いのではないのでしょうか?実は英国などでは、外部専門団体が提供するテストの結果で学校の成績が決定されるようになりつつあります。日本は今後どうしたら良いのでしょうか?現場にとってどうすることが最善でしょうか?是非考えてみてください。評価の世界は奥深いです。



八田 幸恵 はった さちえ

大阪教育大学
総合教育系(学校教育部門) 准教授

加盟校出身学生の紹介

‘教師にまっすぐ’
修了生特集

Introduction



たかみ はるき
高見 春来 さん

教育協働学科 理数情報専攻 数理情報コース 3回生
寝屋川高等学校 平成30年3月卒業

高校時代の思い出

高校3年生の頃の学園祭が今でも強く印象に残っています。私たちのクラスでは「ようこそジャパリパークへ」という曲を歌いました（調べてみてください。驚かれると思います）。クラス満場一致で決定です。おそらく、反対する先生方も多くおられたのではないかと思います。ですが、担任の先生が自分たちの決定を尊重し応援してくださっていたこと、そしてクラスの全員が良い合唱にすると熱心に練習に参加していたことで、すごく充実した時間になりました。クラス一丸となって取り組むことの本当の楽しさに気が付くことができた、良い思い出です。

数理情報コースをめざした理由と将来の目標

先生になりたいと思っていてと同時に、先生になる前に自分とは違う方向をめざす人と共に学べる環境に強く惹かれていたからです。教員養成課程とは違い教員志望ではない学生も多くいるので、学校教育に全面的には賛同しない意見を持つ学生もいます。様々な考え方を知りながらこのコースで過ごし、先生になりたいという気持ちは強まっています。

数理情報コースの良いところ

様々な方向をめざす仲間と巡り合えるところも一つですが、学校外で子どもを支える団体について学べるところだと思います。学校だけで教育をするのではなく、地域社会全体が子どもたちを育てていることにあらためて気づかされるとともに、その中でも学習支援について興味を持つきっかけを得ることができました。

所属しているクラブ・サークルまたは大学生生活で頑張っていること、楽しいこと

クラブやサークルには入らず、1回生の頃から塾講師のアルバイトをしています。しかしそこには学習環境の整った子どもたちが集まっているので、学校が抱える問題には触れられていないのだと感じていました。そんなときに授業で学習支援の団体について学び、興味を持つようになりました。その後、3回生の教育コラボレーション演習という実習科目で、ある学習支援団体にお世話になり、その実習を終えた現在もそこで活動しています。

たけむら そうま
竹村 颯真 さん

学校教育教員養成課程 中等教育専攻 数学教育コース 4回生
池田高等学校 平成30年3月卒業

高校時代の思い出

部活には入っていなかったのですがその他のいろんな活動に費やせる時間が多く、その一つが、学校の先生に声をかけていただいて参加した、大阪教育大学のプログラム「教師にまっすぐ」です。教育現場の「今」の課題について、教師をめざす同年代の高校生や大学生、教育関係の方々と話した経験はすごく刺激的でした。また、学校の行事等にも積極的に参加し、3年生の文化祭では演劇の主演を務めさせていただきました。脚本担当・演出担当と何度も話し合い、周りの助けを借りながら舞台賞をいただいた経験は高校生活で一番大きな思い出です。

数学教育コースをめざした理由と将来の目標

教員になるにあたって「どの教科を教えるのか？」と考えたときに自分の一番好きだった数学を教えていきたいということ、学び続ける上で一番学びがいを感じたのが数学だったからです。将来は数学の苦手な生徒に対して、「あ、数学ってこんな面白さがあるんだ」という気づきを与えるとともに、数学における論理的思考力、試行錯誤していける力を身に付けさせられる教員になりたいと考えています。

数学教育コースの良いところ

まず、大学に入ってからすぐ、周囲の数学力の高さに驚きました。数学は問題を様々な角度から見る重要な科目で、その視点と同じ学年の友人から得ることができました。また、算数・数学の本質や、つまづきやすさに焦点をあてた授業もあり、大学数学を中高の教科指導に還元できるように取り組む先生方も多いです。

所属しているクラブ・サークルまたは大学生生活で頑張っていること、楽しいこと

軟式野球サークルに入っていました。サークルには、純粋に野球を楽しむことを目的に入ったのですが、大阪府外に遠征することも多く、大会を通しての思い出も多く非常に充実していました。また、課外活動として学童保育など複数のボランティアを掛け持ちし、子どもたちとの関わりを大切にしました。子どもたちはそれぞれ本当に多様な悩み、不安、難しさをもっていて、私自身が関わり方に悩むことも多かったのですが、ゆっくり話を聞き共感していくことで少しずつ心を開いてくれたときは嬉しかったです。

オススメの勉強法

メリハリをつけることが大事だと思います。自分が受験生の頃、休み時間にまでだらだらと勉強を続けていた時期がありました。長い時間勉強をしたという事実には満足していただけて、結果的に疲れて全然頭に入っていなかったと今なら思います。友達と遊んだり部活動に打ち込んだりして楽しい思い出を作り、勉強するときはスマホもテレビも一切視界に入れず全力で勉強することをオススメします。短時間でも効率よく勉強できますし、何より、高校生活の思い出をたくさん作ってほしいです。

大教大の良いところ

教員をめざすためのサポート体制が整っているところだと思います。3回生の今(12月)、教員採用試験の面接の練習が始まりました。こんなにも丁寧に基礎固めをしてくださる大学は珍しいとバイト先の方々によく驚かれます。過去の先輩から集めたデータを集約した冊子をいただいたり、教員採用試験対策の動画が視聴できたりと、自主学習にも役立つ教材も充実しています。春からは同じ地方を受ける学生同士で練習し合うグループも作られるとのこと。本気で教員になりたい方にはオススメする大学です。

大学生生活を有意義に過ごすには

まずは、人とたくさん話すこと、そして何でも挑戦することをお勧めします。大学の授業では立候補者数名が発表する機会がかなりあります。また、様々な資格検定の団体受験やそれらに向けての対策講座などが頻繁に行われています。それらに挑戦することで忙しくなりますが、たくさんの経験を積んで充実した大学生活を送ることができると思います。

オススメの勉強法

とにかく勉強時間を確保することを意識しました。やる気が出ない時は音楽を聴きながらでも良いと思います。大学受験期には、朝30分早く登校して勉強したり、昼休みは図書館や空いている教室に行って勉強したりしていました。隙間時間を活用して3問だけでもやろうと、とにかく参考書を開きました。徹夜など極端に生活リズムを悪くすることは、翌日の授業の集中力を下げることになるのでオススメはしません。授業内容をその日中にある程度理解できるように心掛けていました。

大教大の良いところ

1回生から教員になることを意識したゆりのあるカリキュラムです。私は2回生で社会教育主事の資格の勉強を始め、3回生からはボランティア活動にも取り組むことができました。他コースの授業に参加することや、大学外で教育現場を経験することもできて、自身の教育観を広げるために非常に有意義な時間になっています。また、大教大では、各自治体が行っている活動への協力を募集する掲示などもあり、府外からきた学生も積極的に教育活動に参加できる環境が整っています。

大学生生活を有意義に過ごすには

まずは4年間でやりたいことに優先順位をつけてください。特になければ積極的に情報収集して少しでもビビッときたらやってみてください。自ら何かアクションを起こし体感することで、自分が更に深くやってみたいことや、違うことに興味があることに気づくことができます。そうして新しいものにどんどん手を出してみてください。特に教育関係の活動は長期的な視点が大切で、年単位で動く必要があるので、気になったときに始めるのが吉です。





教師をめざす高校生対象特別プログラム 「教師にまっすぐ」最終回を実施

教師をめざす高校生が、その志をより確かなものにするためのプログラム「教師にまっすぐ」が、12月25日(日)に最終回を迎えました。これは府立高校教職コンソーシアム加盟校の1、2年生を対象に実施するもので、今年で6年目となる取組です。受講生は、7月から全5回にわたり、オンラインと対面を併用したさまざまなプログラムに挑戦しました(第1回、第2回の様子は、本誌の前号及び大学のウェブサイトで紹介しています)。

第3回では、受講生が、6つのプログラム「これからの日本の英語教育について考えよう!」「防災と防災教育を考える」「夏季オリンピックを時間まで語り尽くそう」「子どもと学ぶ俳句作り」「プログラミング教育について考えてみよう」「SDGsと学校教育について考えてみよう」に分かれて、それぞれを専門とする本学教員らが講師となり、普段接する機会のない他校の生徒と協働し、参加型のワークやグループディスカッションに挑戦しました。

第4回では、在学生在がこの日のために制作した「大教大をまるごと体験しよう!」という応援動画を視聴し、大教大キュービッド*の在學生と受講生が数名ごとに分かれ、自己紹介や教師に興味をもった理由を話すなど交流を深めました。続いて、教員をめざすために必要なことなどについて、受講生から事前に寄せられた質問に大教大キュービッドが答えるコーナーの後、課題研究

小論文の作成に向けて、作文と論文の違いや小論文の書き方について講義を受けました。

第5回(最終回)では、今までのプログラムを振り返る講義の後、第4回の講義を受けて作成した小論文の講評及び表彰を行いました。193件の小論文から優秀賞として5作品が選ばれ、その中からグッドモデル小論文に選ばれた豊中高等学校の上田七菜香さんが「アニメキャラクターを使用した学習書が学習者に与える影響と高校生を対象とした学習書への使用の提案」と題した小論文を朗読しました。最後は、「教師にまっすぐ」受講後の感想を述べあい、学んだことをどのように生かして今後行動していくか等について決意表明をしました。それを受け、大教大キュービッドからは激励の言葉が送られました。

参加した高校生からは、「同じ志をもった人たちと交流ができて良い経験になりました」「教師という職についてより深く知ることができました。この経験をもとに今後も勉強をしていきたいと思います」などの感想が寄せられました。

※大教大キュービッドとは、大阪教育大学の在學生がキュービッドとなり、大学と母校を結びつけるプロジェクト。在學生が母校を訪問し、教師という仕事の魅力や、大阪教育大学の魅力を伝える。



(第3回)「プログラミング教育について考えてみよう」での記念撮影



(第4回) 画面越しで受講生に手を振る大教大キュービッドと本学教員



(第5回) 小論文を朗読する上田七菜香さん



交流事業の紹介

EXCHANGE
PROGRAMMES

作文コンクール Leading to the Future の表彰式を実施

教職に興味や関心のある、府立の高等学校・特別支援学校高等部の生徒を対象とした作文コンクールの表彰式を、12月24日（金）に大阪教育大学柏原キャンパスで実施しました。76件の応募の中から最優秀賞に輝いた八尾高等学校の越智凜奈さん、貝塚南高等学校の木下あゆみさん、優秀賞に輝いた泉陽高等学校の二宮滉基さん・森川心結さん、桜塚高等学校の児玉敦子さんに対し、大阪教育大学の栗林澄夫学長から賞状とトロフィー、副賞として図書カードが手渡されました。

このコンクールは、作文を書くことを通して高校生・支援学校生が未来の自分について思いを巡らせ、教職への夢や覚悟をより確かなものにするのと、その思いや考えを共有し発信することを目的としたものです。テーマは「現在と未来の教育についての私の考え」「先生との関わりで感動したこと」の2つから1つを選択することとしました。

表彰式後の懇談では、栗林学長から「大学入学に向けた努力に留まることなく、これからの日本の教育の発展を目標に頑張ってください」と、受賞者に激励の言葉が送られました。



栗林学長・和田副学長・池嶋教授と受賞者の記念写真

府立高校教職 コンソーシアムとの 意見交換会を実施

府立高校教職コンソーシアムと大阪教育大学との意見交換会を、ホテルプリムローズ大阪で1月7日（金）に開催しました。

8年目を迎える今回の意見交換会は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を受け、感染防止策を講じることに加え、参加人数を例年の半数以下に限定し、同コンソーシアムから府立高校の校長9人、本学から15人の計24人が参加しました。

栗林澄夫学長と八尾高等学校の藤井光正校長が挨拶した後、学校教育部門の池嶋伸晃教授が、高校生育成プログラム「教師にまっすぐ」、教員の教師力を向上させる「教師の学び舎」などの今年度の連携交流事業について報告しました。続いて、研究・学生支援担当の片桐昌直理事より、学校推薦型選抜（特別枠）の概要について説明があった後、教育担当の岡本幾子理事より教員養成フラッグシップ大学構想についての報告がありました。

出席した校長からは「大阪教育大学との連携事業は生徒にとっても良い刺激になっており、今後の連携をより一層密にしていきたい」といった声があがりました。



意見交換の様子



加盟校の取組紹介

MEMBER HIGH SCHOOLS' PROGRAMMES

岸和田高校 — コロナ禍における国際交流 —

岸和田高校は2011年に大阪府よりGLHS（グローバルリーダーズハイスクール）の指定を受け、グローバル人材育成をめざす取組の一つとして、多くの国際交流を実施してきました。2007年から海外への修学旅行を開始し、訪問先は2007年、2008年がハワイ、2009年は台湾、2010年より台北市内にある景美女子高級中学と姉妹校の提携相互交流をしているところです。



本来なら米国での「グローバルリーダー養成プログラム海外版」、「イマージョンプログラム in オーストラリア」、「ドイツザールラント州相互交流プログラム」、そして台湾への修学旅行のような行事があり、その他にも年間を通じて海外からの高校生を受け入れ、生徒交流を行ってきました。ところが、2020年からのコロナ禍により、実現できなくなっています。そこで、本校のコロナ禍におけるグローバル人材養成をめざす取組と国際交流を紹介します。

グローバルリーダー養成プログラム校内版

英語の4技能とともに「自己を表現する」、「主体性を持つ」、「チャレンジ精神を育む」などグローバルリーダーとしての素養の育成をめざす、1日6時間4日間連続で行うプログラムです。日本に滞在している海外の大学生・大学院生と、英語でディスカッションとプレゼンテーションの練習を繰り返し、最終日には一人ひとりがプレゼンテーションを披露します。2021年の夏に実施した「校内版」には110名が参加し、次のような参加者からのアンケート結果を得ました。



プログラム全体への満足度（「非常に満足」もしくは「満足」）	99%
英語でのコミュニケーションに自信が持てるようになった	100%
英語を話すのが楽しいと思うようになった	97%
世界のことをもっと知りたいと思うようになった	96%
将来の夢や目標を持つための参考になった	94%

たった4日間ですが、生徒の英語を話す姿勢は驚くほど変わります。「海外版」が実施できない現状で、この「校内版」

は日本にいながらにして英語運用能力とコミュニケーション力を育成する貴重なプログラムとなっています。2022年3月には春のプログラムを近隣の高校と合同で行う予定です。

日本文化体感プログラム

歴史街道推進協議会との連携により2020年度より実施しています。大阪府内の大学に留学している大学生、大学院生と本校の希望する生徒がともに岸和田城、だんじり会館、五風荘などの市内の名所を観光し、その後意見交換を行い、岸和田の魅力をまとめて海外に発信するプログラムです。今年度は10月に行い、留学生が約20人参加しました。本校生徒は英語や日本語を使って留学生と話し合い、留学生の母国語も教えてもらい、和気あいあいと交流を行いました。

台湾の姉妹校、韓国の高校生とのオンライン交流

2年連続で台湾への修学旅行が実施できず、姉妹校との交流が途絶えていましたが、11月に姉妹校である景美女子高級中学とオンラインで大規模な交流ができました。2年生全員が岸高ホールという講堂に入り、Wi-Fiをつないでの試みでした。司会進行は英語で生徒が行い、交互にパフォーマンスを披露しながら2時間の交流を行いました。



また、大阪観光局に日本語を勉強している韓国の高校生をご紹介いただき、2回にわたって英語と日本語、少しの韓国語を混ぜて1対1でのオンライン交流を行いました。約20名の生徒がそれぞれの相手と一人一台端末を使って意見交換をしました。

現在とこれから

この他、中国語講座、韓国語講座、イングリッシュ・カフェ（英会話講座）は継続して行っています。それぞれの活動の詳細については、本校ウェブサイトの校長ブログとGLブログに掲載しています。先行き不透明なところはまだまだありますが、「できること」を探し、工夫しながら、次年度もグローバル人材育成のための取組を実施していきます。

学生が Minecraft の世界で キャンパス内の建物を再現

ICT 教育支援ルームの学生が、11月1日(月)から3日間、「Minecraft: Education Edition※」を使って柏原キャンパス共通講義棟(A棟)を再現する様子をYouTubeへLive配信するイベントを実施しました。

これは、プログラミング教材である「Minecraft: Education Edition」の活用方法について、実際にプレイしながら解説することで、誰でも気軽にプログラミングを学ぶことができることを伝えることを目的に実施されたものです。

3日間の配信は、同ルーム11名の学生スタッフで運営し、延べ457名が視聴しました。さらに、専用アプリをインストールして学内ライセンスを用いることで、配信している同一のゲーム世界に参加できる視聴者参加型の形式で行いました。

※ Minecraft: Education Edition は、ものづくりゲームの一種である Minecraft (マインクラフト・略称「マイクラ」) を、プログラミング教育・情報教育・協同学習などの教材として使えるようにしたもの。



配信する映像をコントロールする学生

プロジェクションマッピングと連動! 学生が狭山池博物館でコンサート

教育協働学科芸術表現専攻音楽表現コースの学生6名が、10月24日(日)に大阪府立狭山池博物館でオータムコンサートを開催しました。

これは、出演した学生のうち4名が、教育コラボレーション演習の一環で、同博物館にて実習したことをきっかけに、開催に至ったものです。

コンサートでは、演奏だけでなく、ディズニーキャラクターにちなんだ装飾を身につけて「ディズニーメドレー」を披露し、会場を大いに沸かせました。さらに、アンコール曲として大ヒットアニメ「鬼滅の刃」の主題歌「紅蓮華」を演奏しました。

その後、夕方からは同施設内で実施された開館20周年記念事業のプロジェクションマッピングイベントにも出演し、コンサートで披露した曲目の一部をプロジェクションマッピングに合わせて演奏しました。



プロジェクションマッピング
イベントの様子



コンサート終了後の記念撮影

編集後記

「教師にまっすぐ」最終回の決意表明では、同じ目標をもつ同世代との交流を通して刺激を受けたという人、大学生の話をきいて受験へのモチベーションが上がったという人、いろいろな人の意見が聞こえてきましたが、受講生のみなさんに共通したきらきらした表情がとても印象的でした。

高校生の皆さんにも、いつかやってくる就職活動の際には「自己分析」をする機会も訪れることでしょう。自分のことでも、本を読んだり動画を観たり実際に行動に移したりと、経験してみないと気づけないことがたくさんあるので、少しでも興味をもったことはぜひチャレンジしてみてください。そして、そのときに「教員」という選択肢があったらこのプログラムに参加してみたいです。

大阪教育大学では、教職経験者の方から「教師冥利に尽きるエッセイ」、恩師への感謝の気持ちを伝えたい方から「恩師への手紙」を集めて発信もしているので、気になる方はぜひご覧ください。(A.I.)

トピックスの詳細や、エッセイについては大学公式ウェブサイトでご覧いただけます。



大阪教育大学ウェブサイト

府立高校教職コンソーシアムは、すぐれた資質を備えた次代を担う魅力ある「教員」を育てるために、本学をはじめとする教育系大学と連携し、「教員になること」を具体的にイメージできる機会を与えることを目的として、大阪府内の32府立高等学校間で平成26年末に結成されました。現在は42校が加盟しています。



大阪教育大学のSNSアカウント



公式Twitter

<https://twitter.com/OsakaKyoikuUniv>



公式Facebook

<https://www.facebook.com/OsakaKyoikuUniv>



公式YouTube

<https://www.youtube.com/user/OKUChannel>



公式Instagram

<https://www.instagram.com/osakakyoikuuniv>



イベント情報やニュースなど、大教大の「今」を発信しています。ぜひフォローしてください。